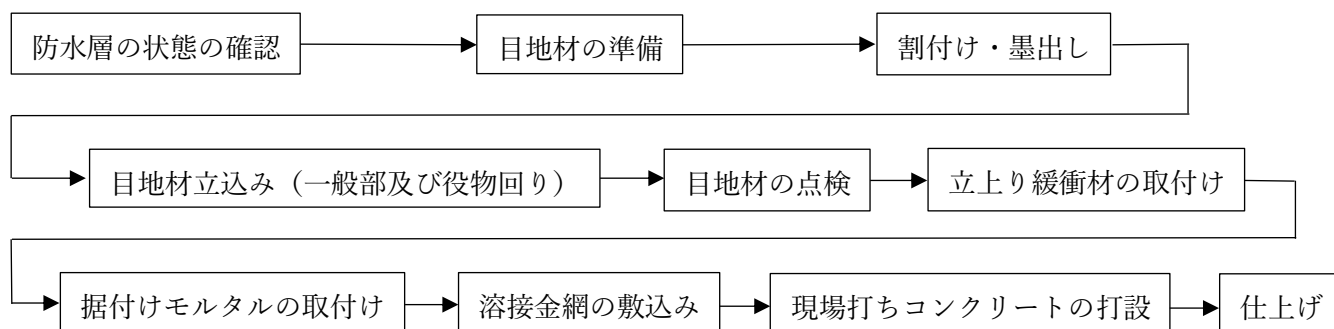


6. 成形伸縮目地材の施工

伸縮目地材の施工に関する作業工程手順のフローチャートを示す。



6-1 成形伸縮目地材の準備

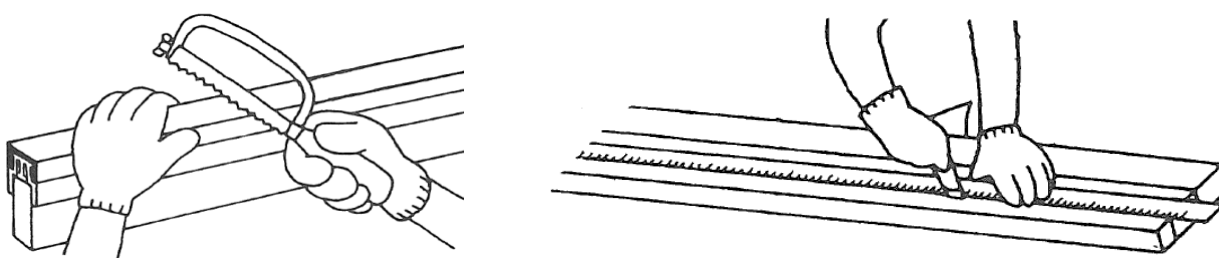
6-1-1 長さの調整

成形伸縮目地材は一本当たり、1.5mもしくは2.0mの製品である。設備架台や排水溝回りについて伸縮目地材を割付けた場合、単位長さ以外の寸法については、伸縮目地材を現場の寸法に合わせて適切な長さに切断して使用する。

伸縮目地材の長さを切断する場合は、金鋸を使用して切断する。この時、付着タイプの伸縮目地材では金鋸の刃に付着層が粘着して切断作業が困難である。この場合は金鋸の刃に水を付けて切断するとスムーズに作業が進行する。

6-1-2 高さの調節

- (1) 勾配調節用として、2～3種類の高さの伸縮目地材が納入されている場合は、これらの伸縮目地材を適用して高さの調整を行なう。
- (2) 高さ固定型の伸縮目地材で、納入されたものよりも低い高さの伸縮目地材が必要な場合は、定規をあててカッターナイフを用いて目地本体を切断し高さの調整を行なう。目地本体を切断する際には、下敷きに合板などを用いて養生し、下地の防水層を傷付けないように十分注意する。
- (3) 目地本体とベースが一体となったタイプでは、キャップをはずしてベースの頂部を切断して高さの調整を行なう。この際、目地本体に波打ちがでないよう注意する。



図－10 目地材の準備、長さ、高さの調節(例)

6-2 目地割付け用の墨出し

6-2-1 目地割り水系の割出し

- (1) 設計図書及び特記仕様書に指示された現場の基準墨線に基づいて、排水溝、設備機器基礎架台回りの目地割り水系を出して確認し、現場管理者の承認を受ける。
- (2) 現場の目地割り水系に従って、縦・横の間隔が3m程度になるように目地割りを行なう。
- (3) 目地割りは、水下側から、3m間隔程度に水上側に割付けを行なう。
- (4) 防水層に断熱材を組み込んだ工法や寒冷地における現場打ちコンクリート保護層では、断熱材の熱蓄積が大きくなり、又寒冷地では外気温とスラブの温度差が大きく発生して、現場打ちコンクリ

ート保護層のムーブメントを緩衝させるために伸縮目地材の相互の間隔を、縦・横 2.0m から 2.5m 程度に設置して、ムーブメントの緩衝効果を高めておく対策が有効である。

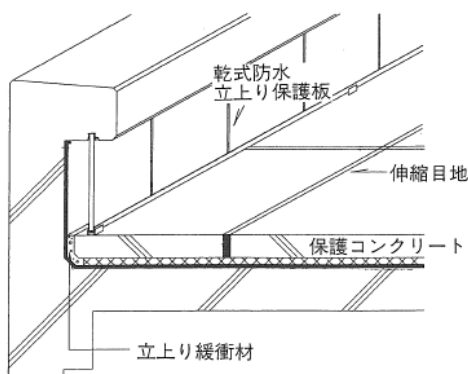


図-11 水下側の割付け墨出し(例)

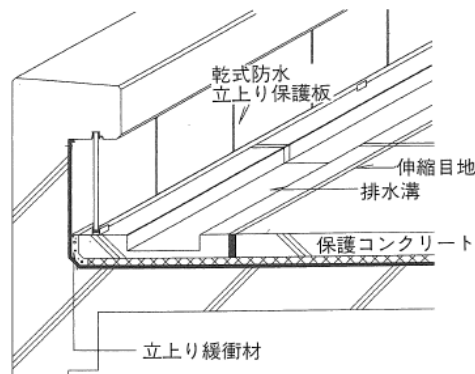


図-12 妻側の割付け墨出し(例)

6-3 現場打ちコンクリート天端の墨出し

- (1) 目地割り水糸が出されてから、縦・横 3m 程度の間隔の目地割りに従って、現場打ちコンクリートの天端レベルの目地割り水糸を張る。
- (2) 天端レベルの目地割り水糸を張るときは、現場管理者の立会いのもとに現場打ちコンクリートの天端レベルを調整する。
- (3) 天端レベルに合わせて目地割り水糸を張り巡らせるとき、特に下地の防水層に傷を付けないように注意して、目地割り水糸を固定することが重要である。
特に、水準器を支持する三脚を立てる場合、三脚の先端で防水層を傷付けないように、ベニヤ板などを用いて養生する。
- (4) 目地割り水糸の張り巡らせが終了した時点で、管理者の承認を得てから目地立て作業を行なう。

6-4 目地立て作業(一般部)

6-4-1 準備

- (1) ベースを使用しない高さ固定型の伸縮目地材では、伸縮目地材本体の底面側に据付け用ホルダーを目地本体 2m に対して約 4 個、又は、目地本体 1.5m に対して約 3 個のホルダーを装着してから、目地割り水糸に合わせて目地立てを行なう。
- (2) 本体とベースが別体となったものでは、伸縮目地材の目地立てにベースを全延長に併用し、ベース底面の粘着テープの剥離紙を取り除いて、目地割り水糸に合わせてベースを取付けてからベースの溝に目地本体を差し込んで固定する。この時、目地本体とベースの両方に高さ固定用ピンを用いて固定する。同時に高さの微調整を行う。
- (3) 本体とベースが一体となった伸縮目地材では、ベース底面の粘着テープの剥離紙を取り除いて、目地割り水糸に合わせて目地本体を取付け固定する。

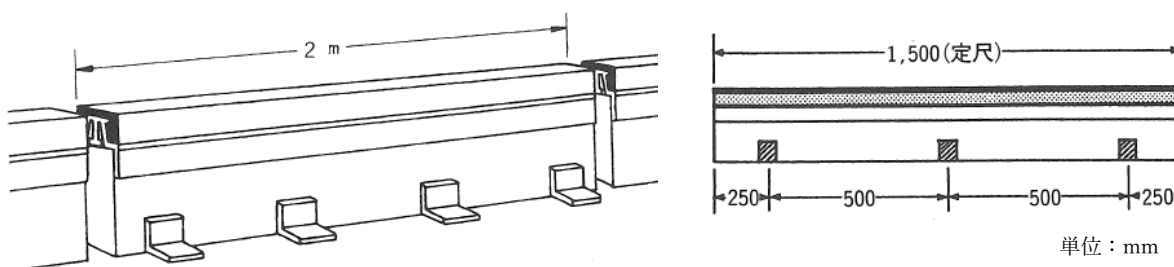


図-13 ホルダー取付け(例)

6-4-2 レベル合わせと固定方法

- (1) 高さ固定型の伸縮目地材では、キャップの天端角を目地割り水系に合わせて目地立てを行ない、目地割り水系レベルで伸縮目地材の固定を行なう。
- (2) 本体とベースが別体となった伸縮目地材では、キャップの天端角を目地割り水系に合わせて高さ調整を行なった後、ベースと目地本体を固定する高さ固定用ピンを差し込んで伸縮目地材が移動しないように固定する。
- (3) 高さ可変型の目地本体とベースが一体となった伸縮目地材では、目地割り墨線に目地材のベース部の中心を合わせて下地に取付ける。目地割り水系は目地割り墨線より伸縮目地材キャップ幅の1/2の位置に張り、この水系にキャップ上端角の位置合わせを行なって、更に、高さ固定用ピンをキャップ下端と目地本体に差し込んで、目地本体とキャップを固定する。

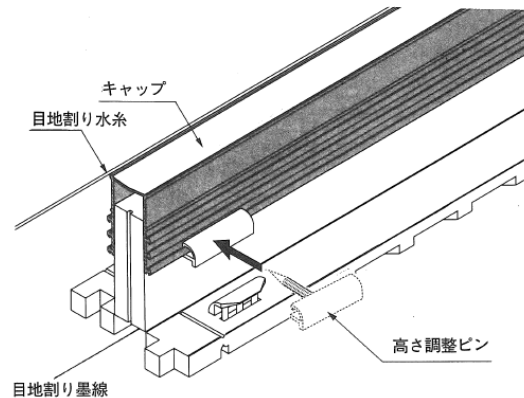


図-14 高さ調節用レベル合わせ、目地割り墨、水系(例)

6-4-3 目地材相互の接合

- (1) 伸縮目地材の接合部にジョイント用テープ状シール材を使用する場合は、部品としてケース梱包内に入れているテープ状シール材を伸縮目地材の小口部分にコの字形に巻付けてから、接合する伸縮目地材に押付けて接合させる。
- (2) 伸縮目地材の接合部に直線用ジョイントを用いる場合は、接合する伸縮目地材相互の小口部分のキャップと目地本体の間に接合用ジョイントピースを差し込み接合する。
- (3) 目地本体とベース台座部がはめ込みタイプのものでは、目地本体相互をはめ込んで固定を行なう。
- (4) 伸縮目地材相互を突き合わせて接合した時、目地本体の突き合わせ箇所とキャップの接合部をずらして取付ける方法も行われている。

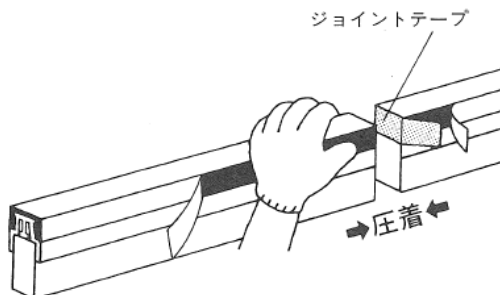


図-15(a) ジョイントテープ接合

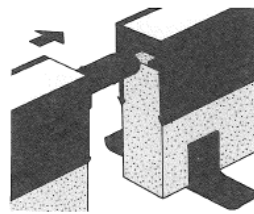


図-15(b) 直線ジョイント接合

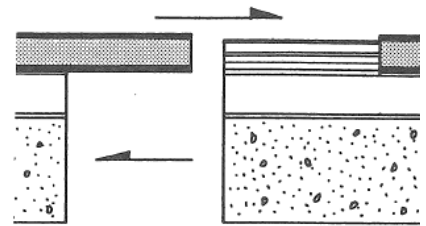


図-15(c) キャップずらし接合

図-15 目地材相互の接合(例)

6-4-4 目地材交差部の接合

- (1) 伸縮目地材が交差する部分の接合にジョイント用テープ状シール材を使用する場合は、先述の小口部の接合と同様に、剥離紙を剥がし、ジョイント用テープ状シール材を巻付けた面と接合する伸縮目地材の側面とで、伸縮目地材相互を押付けて接合させる。
- (2) 伸縮目地材の交差接合部にコーナージョイントを使用する場合は、伸縮目地材の交差する接合部に伸縮目地材相互を突き合わせて保持した後、コーナージョイントを伸縮目地材のキャップや目地本体に差し込んで取付け固定を行なう。

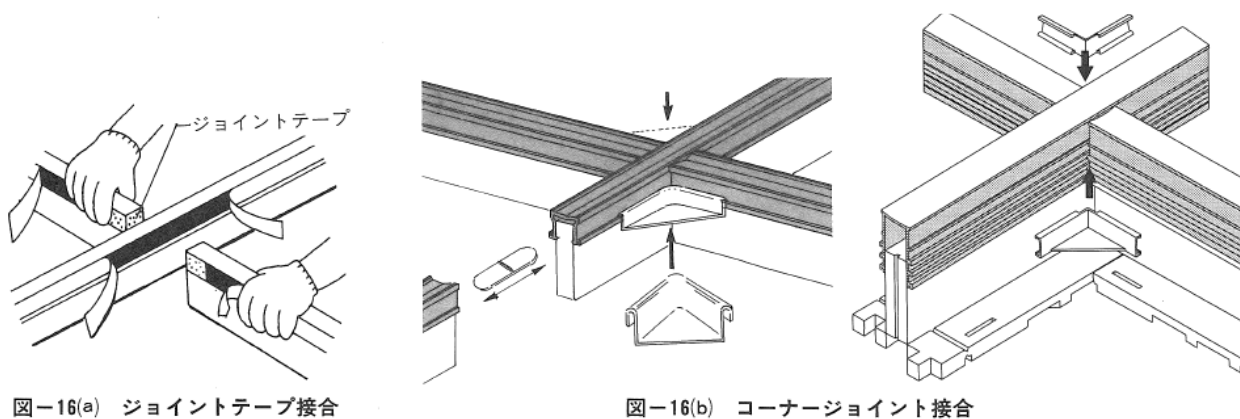


図-16 目地材交差部の接合(例)

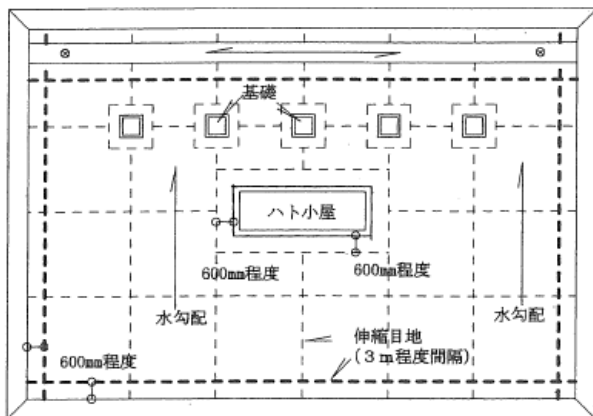
6-5 目地立て作業(役物回り)

6-5-1 排水溝及び基礎架台回り

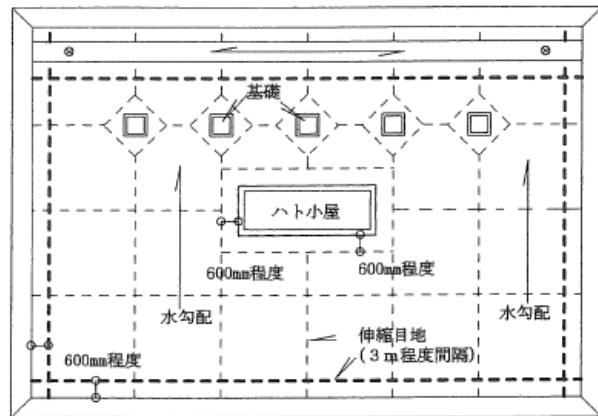
- (1) 立上り周辺及び排水溝用基準墨が、所定の箇所に打たれていることを確認した後、立上り周辺にボーダー目地を設置する。
- (2) ボーダー目地は、立上り際から 0.6m 程度、排水溝周辺では排水溝上端部から 0.3～0.6m の位置に設置するのが一般的である。
- (3) 設備機器用基礎架台の周辺には、架台の立上り際から 0.3m 程度の位置に架台の四辺形に合わせて伸縮目地材を設置するのが一般的である。架台の角から現場打ちコンクリート保護層にひび割れが発生することがあり、架台の角から伸縮目地材の設置枠を 45 度ずらして設置する場合もある。

表-2 目地間隔と目地材キャップ幅及び注意事項(例)

	標準目地割り間隔	標準目地材キャップ幅	備 考
一般工法	3.0m	20～25mm	絶縁用シート面に達するように目地立てする
断熱工法	2.0～2.5m	20～25mm	蓄熱によるムーブメントを緩衝させるために目地間隔を小さくする
ボーダー目地	立上り際から 0.3～0.6m	25～40mm	排水溝の内部には設けない (図-17(a)参照)
役物回り	0.3～0.6m	20～25mm	架台底部の形状から、45 度ずらすことで、ひび割れが分散される効果がある (図-17(b)参照)



図一17(a) 目地立て間隔と役物回り(例)



図一17(b) 目地立て間隔と役物回りを45度ずらした図(例)